

## 『俳句』 試訳—アメリカ発俳句入門 (3)

松井貴子

### 俳句創作七つの秘訣

#### 秘訣2：表現

俳句は、カメラで撮るスナップ写真のように、風景の絵を描いたり、スケッチしたりする。描くのに適した形象を使うことが重要である。俳句における表現は、五感に結びついたものを現前させる、ただ一語、あるいは、ひとまとまりの語群である。一目に見える、聞こえる、触れる、匂いを感じられる、味わえるもの—特に自然表象である。俳句では、たいてい一つか二つの形象を使う。この蛙の句<sup>1</sup>には鮮明な自然表象があり、明瞭にその場面、池、蛙、水が撥ねる様子を眼に浮かべることができるので、この句は優れている。より叙景的であるほど、強い印象を作り出すことが容易である。例えば、「花」のような概括的な語を使うのではなく、代りに、「紫色のアイリス<sup>2</sup>」のように、どのような花であるのかを言葉で表わしてみてください。もっと力のある描写をするには、「日なたのアイリス」や「おばあちゃんの裏庭の日なたにあるアイリス」のように、場面の中に花を表現することができる。このような表現は、俳句に感動的な生き生きした描写をもたらす。

次に挙げる俳句<sup>3</sup>のように、鮮やかな自然表象を使うことが大切である。

雨滴が落ちる

濡れて冷たい

葉っぱが一面に広がる

—ユーライヤ・ムハンマド (7歳、アメリカ合衆国)

蜘蛛の巣

銀色の蜘蛛の糸

風が蜘蛛の巣を張る

—カルロス・トゥン・ルイス (11歳、メキシコ)

これらの俳句によって、雨滴、葉、銀色の蜘蛛の巣と風を眼に浮かべ、感じる  
ことができる。根幹となる要点は、見たものを読者に話したり、説明したりする  
のではなく、見たものを鮮明な描写によって、ただ提示するということである。  
例えば、夜に月を見上げたなら、「見上げたら、美しい月が見えた」と言わないで、  
それよりも、この俳句のように、目で見た場面を描写する方がよい。

月が魔法で出す

銀白色の道

私の部屋に

—フランツィスカ・シュタグネート (10 歳、ドイツ)

この句では、作者は、描写自体に物語らせて、美しい月を表わしている。優れた俳句を書くためには、世界を透徹した目で見えて、人を惹きつける表現を使って、明瞭に書きとめなければならない。そして、俳句はとても短いので、読者は、作者を引き留めて俳句を書かせた「見ること」を、短い三行で経験できなければならない。月を詠んだ句が他にいくつかある。

砂丘の向こうに

太陽が優雅に赤く輝く

月が通過していく

—ゼイナ・シャマス (12 歳、サウジアラビア)

葉が

照らされている

青白い月明かりに

—ポール・シン (9 歳、アメリカ合衆国)

形象を使うことについて他にいくつか指針がある。描写を弱めるので、比喩表現で、「ように」や「同様に」という語を、「氷のように冷たい指のような冬の枝々」のように使わないようにしなさい。それから、「明るい」や「日当たりがよい」

のような同じ種類の語は、同じ趣向を表現して、俳句を膨らませないので、繰り返さないようにしなさい。「悲しい」という語も、「美しい」という語も、使わないようにしなさい、これらの語は説明するからである。一描かないのである。鮮明な描写を使った例句を挙げる。

夕方の薄明かりに  
茸だけが  
照らされている

一べた けいじ (12歳、日本)

夕暮の微風—  
水が飛び散る  
青鷺の両脛に

一与謝蕪村 (日本の俳人、1716 - 1783) <sup>4</sup>

通常は、中心となる形象を一つ使うのがよい。この形象を、より面白いものにするための一つの方法は、他のものと結びつけることである。形象の間に生じる火花を表わすことが大切なのである。一立ち止まらせ、もっとよく見させ、そして、「ああ、今、見える」と言わせた、そのような驚きの瞬間である。俳句を面白くするのは、「薄明かり」と「茸」、あるいは、「微風」と「青鷺」という二つの形象の間に生じる火花なのである。このような火花は、蛙や鷺の句にあるように、小休止や区切りによって表わされることがある。<sup>5</sup>

## 註

- 1 この蛙の句は、「秘訣1:定型」で例示された、芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」である。
- 2 菖蒲あやめ、杜若、花菖蒲など、アヤメ属の植物の総称。
- 3 英語で書かれた、これらの俳句を試みに五七五の詩型で次のように訳した。

雨滴落つ濡れ冷ゆ落葉満目に ユーライヤ  
蜘蛛の囀の銀色の糸風紡ぐ カルロス

月の魔法銀色の道我が部屋に フランツィスカ  
砂丘陰赤き陽優なり月渡る ゼイナ  
木々の葉が青白く照る月影に ポール  
夕薄明茸だけが照らされる ケイジ

4 燕村の原句は次の通りである。

夕風や水青鷺の脛<sup>はぎ</sup>をうつ 燕村

5 原書は、Patricia Donegan, Haiku, Tuttle Publishing 2003.

同書は、asian arts & crafts for creative kids シリーズの一冊である。

本稿では、同書の10 - 12頁を翻訳した。

本研究は、平成21 - 24年度科学研究費補助金（基盤研究C）「季節感、季節認識に関する比較文化研究—俳句の国際化を視座として」による成果である。